

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

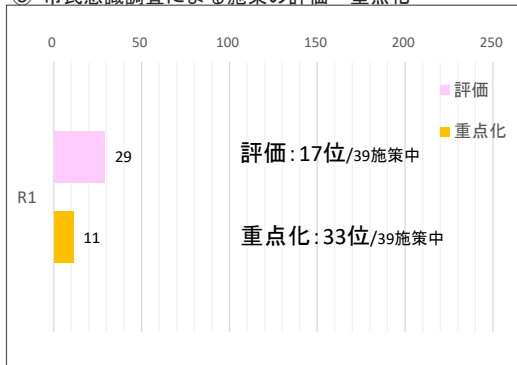
【平成31年度作成】

施策名 (小項目)	歴史文化の活用と伝統文化の継承	決算書 P188	(款)10 教育費 (項)6 社会教育費 (目)4 文化財保護費,5 文化施設費
コード	02-03-10	作成者	文化振興課長 横山 裕昭 (tel 64-1846)
この施策の アピール ポイント	本市には、日本を代表する焼き物「備前焼」や近世の教育資産「旧閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に引き継ぐとともに広く活用していきます。		
この施策の 平成30年度の 施政方針	歴史文化の活用と伝統文化の継承につきましては、日本遺産に認定された旧閑谷学校や備前焼の魅力を発信し、観光客の増加と地域の活性化に努めてまいります。 旧閑谷学校につきましては、関係市（水戸市・足利市・日田市）と連携し、世界遺産登録に向けて事業を推進してまいります。 また、備前焼ミュージアムにおいては、魅力ある企画展の開催により、備前焼の伝承、産業・観光の振興を推進してまいります。		

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想（大項目）	自己実現施策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画（中項目）	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域の人の手で保存継承します。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海産物、山々の自然など、豊かな歴史、文化、自然があり、現代の生活の中で脈々と息づいています。これらの地域文化資源を大切に守りながら後世につないでいくとともに、価値を十分に理解し、認定を受けた日本遺産を通じ、資源の魅力発信もしながらまちづくりに生かす必要があります。また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。芸術・文化については、ゆとりとするお美の実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠です。市民が身近なところで、幼い頃からいつでも、気軽に音楽や演劇、美術にふれるなど、豊かな自然・風土を生かしながら芸術・文化に親しむことができる機会や場所づくりを進めていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域文化資源の保存・活用</li> <li>・情報発信体制の構築</li> <li>・伝統文化の保存</li> <li>・旧閑谷学校世界遺産登録推進</li> <li>・備前焼日本遺産活用推進</li> <li>・芸術・文化にふれる機会の提供</li> <li>・自主的な活動への支援</li> <li>・子どもの芸術・文化活動の推進</li> </ul>	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



評価結果の分析	評価は全体の中間より少し良く、その中の年代では18-39歳の評価が比較的多かった。次代を担う世代はもとより、今後も全世代に地域文化資源の魅力発信、保存・継承に努めていくとともに活用についても理解を得ながら推進していく必要がある。
重点化要望の分析	生活に密着した施策に対し重点要望が強くなり、本施策の重点化要望については低くなっているが、市民の誇りや心豊かな生活を実現するため推進していく必要がある。来年度創学350年を迎える旧閑谷学校や備前焼という日本遺産ブランドに活用推進など継続していく必要があるため、理解が得られるよう事業展開していく。

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H28	H29	H30			R2	R4
成果指標 文化施設の年間入館者数	目標	人	20,000	20,000	20,000	市で管理運営する歴史文化施設（歴史民俗資料館・加子浦歴史文化館・埋蔵文化センター・吉永美術館・備前焼ミュージアム）への入館者数	R2	20,000
	実績	人	14,589	18,221	15,696		R4	20,000
	達成率	%	72.9	91.1	78.5			
	ベンチマーク							
参考指標① 閑谷学校のことを来訪者に説明できる市民の割合	目標	%	63.0	63.0	63.0	【市民意識調査】 (隔年実施)	R2	65
	実績	%	54.4	-	52.7		R4	67
	達成率	%	86.3	-	83.7			
	ベンチマーク							
参考指標② 芸術・文化に接する機会があった市民の割合【市民意識調査】	目標	%	50.0	50.0	50.0	【市民意識調査】 (隔年実施)	R2	50
	実績	%	40.0	-	36.8		R4	52
	達成率	%	80.0	-	73.6			
	ベンチマーク							
参考指標③ 子ども備前焼作品展及び文学賞への出品数	目標	人	1,700	1,700	1,700	子ども備前焼作品展出品数+市民文学賞出品数	R2	1,700
	実績	人	1,738	1,598	1,767		R4	1,700
	達成率	%	102.2	94.0	103.9			
	ベンチマーク							

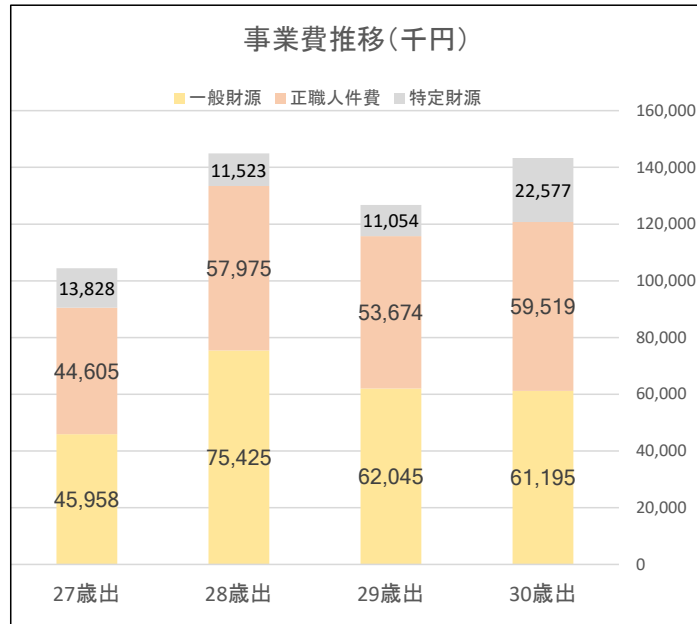
⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
中央公民館	図書館運営事業	文芸創作活動や各種文献とその地の歴史・文化をひもとく上で図書館機能との連携は欠かせない。
学校教育課	小・中学校運営支援事業	郷土の文化財を活用した教育活動や文化活動に触れる機会の充実を図ることで、子どもの文化意識の向上につなげる。
産業観光課	観光推進事業・備前焼振興事業	日本遺産（備前焼・旧閑谷学校等）を生かした観光振興や備前焼の振興は、文化財活用の例である。

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い					
		判断	理由（なぜ、そのランクと評価したのか）				
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	3		「芸術文化に接する機会があった市民の割合」の方がより望ましい指標ですが、市民意識調査が隔年実施のため、入館者数を指標としています。				
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か？	3		地域文化資源や伝統文化の保存という視点だけではなく、まちづくりを含めた活用と積極的な情報発信が必要です。				
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3		文化施設が市内に点在しています。施設の老朽化も進んでおり、機能統合を行うことなどにより集約を図っていく必要があります。				
進行年度(H31年度)の取組内容 (課題解決状況)	備前市歴史文化基本構想の改定作業については、文化財保護法の改正の状況を見ながら検討していきます。その中で文化資源や伝統文化の活用についても議論していく必要があります。また、前年度末に完成した「論語かるた」により文化財への親しみや理解を促進することを通して情報発信も強化しています。						
翌年度(R2年度)の取組目標	年度ごとに国指定備前陶器窯跡（伊部南大窯跡・伊部西大窯跡・伊部北大窯跡）の公有化を予定しています。文化施設では地域の趣向を凝らした企画展を中心に実施して行く予定です。「論語かるた」大会の継続や旧閑谷学校創学350年を記念した事業を計画していく。						
二次評価者コメント	<table border="1"> <tr> <td>役職</td> <td>教育部長</td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td>田原 義大</td> </tr> </table>		役職	教育部長	氏名	田原 義大	基本施策への貢献度 <b>4 やや高い</b>
役職	教育部長						
氏名	田原 義大						

10 歴史文化の活用と伝統文化の継承【文化振興課】



事業費  
特定財源

1.4 億円  
0.2 億円

